



神奈川県重症心身障害児（者）を守る会・会報

かながわ県・守る会

N03

(2009. 12. 19)

発行責任者

伊藤 光子



障害児・者のより良い環境づくりを目指して

神奈川県守る会・相談役 香坂 勇

昨今、私たちを取り巻く環境は皆様もご承知の通り、日常生活を営む上での将来的な不安、国際環境も含め国民一人ひとりが、安心・安全な暮らしの実現に予測しがたい状況下にあり、誰しも今後の動向に期待と不安の気持ちで見守っているのではないのでしょうか…

福祉環境においても、平成十五年度よりの「支援費制度導入と関連する財政破綻」それに平成十八年度より施行された「障害者自立支援法」施行後、多くの問題点、課題が噴出、その対応策として「解決策としての特別対策の実施」平成二十一年度に向け「施行三年後の抜本的改革」など諸施策が三月の国会に上程、取り巻く環境改善を大きく期待をしました。

おりしも、関連法案を含むこの法案も審議未了の段階で廃案、衆議院解散結果として、政権交代と目まぐるしく大きく変化する中、私たちとしては、今後の動向に注視すると共に、冷静な判断と必要な行動力が求められているのではないのでしょうか…

このような状況の中、「神奈川県重症心身障害児・者を守る会」会報3号の発刊にあたり、現状、様々な課題がある中、守る会会員各自が「自分自身どのような視点を持ち、行動するか」が求められています。

少なくとも以前に比べ最近の県守る会活動は、伊藤会長を先頭に各役員をはじめ、会員各位のご理解、ご協力により大きく変わり、活性化された会活動が展開されてきたと強く感じていますが、今後に残されたやるべき諸課題も多くあり、特に「在宅者対策・会員増強対策・財政基盤の強化」等、地道な行動が必要です。

現状、政治等の動向を注視しつつ、一般社会の課題や問題に一喜一憂し、振り回されず、会としての立場、役割認識をした中で各自が「前向きに、着実に、プラス思考で」少しでも障害児・者の未来により良い環境づくりを目指し、会員の皆様と力を合わせ神奈川県守る会運動の前進と更なる発展を願ひ、頑張りますよう…

（会報発刊にあたり一言）

障害児（者）の豊かな生活を築くために・・・！

神奈川県守る会・会長 伊藤 光子



会員の皆様には、県の守る会の運営のために、日頃より深いご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

皆様すでにご案内のとおり、この度の政権交代に伴って、首相を本部長とする『障害者制度改革推進本部』が設置され、現行の『障害者自立支援法』を廃止して『障害者総合福祉法（仮称）』という名の下に、新たな制度の模索が始められています。

そこでは様々な関係者を交えて障害者福祉に関わる幅広く奥行き深い青写真造りが進められるそうですが、その中は重症心身障害児（者）のことも、抜かりなく位置づけていただくよう、私共も実情を伝え、かつ意見を述べて行かなければならないと心を引き締めているところです。

特に、呼び名はどのように変わろうとも、いわゆる『児者一貫』の仕組みだけは、絶対に盛り込んで頂かなければなりません。保護者の高齢化への対応、引いては在宅者の緊急ショート療育の充実、特別支援学校強化及び卒業者の進路などなど、山積している問題点をしっかり訴えていかなければなりません。

また、昨今、新型インフルエンザの流行が懸念されています。守る会本部でもワクチンの優先接種を厚生労働省に要望した結果、障害児（者）は、医療従事者に次ぐ第二優先順位の『得病ある人』の中に含まれる事になりました。

したがって、子どもたちは、11月以降、ワクチンの入荷次第、関係医療機関において接種されます。

私どもは、今後とも、『最も弱いものをひとりももれなく守る』という理念のもとに、守る会の活動を着実に積み上げて行って、社会の共感を得ながら、かつ、社会の恩恵に感謝しつつ、障害児（者）の豊かな生活を築いて行きたいと願っています。

会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い致します。

賛助会員募集のご案内

すでに会員の皆様には賛助会員募集のお願いをしておりますが、会員さんお一人1件の加入者を募る事で神奈川県守る会の運動の輪を更に大きくし、障害児（者）の豊かな生活を築く大きな原動力となります。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

神奈川県重症心身障害児（者）を守る会

総会以降の神奈川県守る会の行事・出来事について

役員の体制が一新されて約一年半が経過しました。この間、一同結束の上、暗中模索、遮二無二あれこれ進めて参りましたが、先ずは一応の成果を挙げつつあり、内外からも、それなりの評価を戴いているようで心強く思っています。

新体制になって初めての総会は、意欲的な活動を盛り込んだ事業計画とその実施要領の一般方向について審議し、決議に引き続いて第二回学習会(みんなで語ろうパートⅠ)を開催しました。第四回は斯界出色の講師を招聘して行う内容深い講演、懇談会にしようと、来年二月を目途に、鋭意準備を進めています。

また、県下各施設の保護者会の総会には会長が出向いて小講演を行いました。さらに、代表役員が県障害福祉部関係者や県議団などとのヒヤリングや懇談を重ね、現況及び要望を伝えると共に、父母連、重心協、各種フォーラム、近郷都県守る会の勉強会等にも、細大漏らさらず会長及び関係役員が参加して外部との造詣に学び、かつ、意見を述べて参りました。



会報も第3号を発行する運びとなり、今回からは、新たに「みんなの広場」や「趣味のコーナー」などを設け、会員の皆様のお役に立つと同時に楽しんで戴けるよう紙面の充実を図って参りました。

なお、関ブロ新潟大会、並びに、本部からの援助を戴いて折角意気込んでいた川崎分会の「夏の家」が、残念ながらインフル禍の関係で中止となりました。

ただし、創立45周年記念大会を兼ねる全国大会は、6月予定のところを9月に繰り下げて催行され、例年にも増してレベルの高い内容の充実した大会となりました。

県下からも会員等総計46名が参加し、多くを学ぶことができました。100名体制を目指してきた賛助会員は、10月末現在90名にまで達しました。あと一息です。正会員も総会以降19名の新入会を戴き、総勢234名となりました。

会員の皆様には、今後とも、会の諸行事に積極的にご参加戴きますとともに、会の発展のため、ひいては県下の障害児(者)の療育と福祉の向上のために、ご支援ご尽力下さいまいようお願い致します。

* 今年は、インフルエンザの影響で多くの行事や催し物が中止に追い込まれ、守る会の活動にも大きな影響がありましたが、役員一同は事業計画の遂行はもとより、各種行事、研修会、各種団体等の会議参加、行政要請行動、等々精力的に行ってきました。

後半の活動に向けて更に役員一同一致団結をして頑張りますので、会員さんの更なるご協力をお願い致します。



『第3回学習会パート2』

どうしたら親亡きあとも

子どもたちは豊かに暮せるか！

去る11月5日(木)県サポートセンターにおいて神奈川県守る会、学習会『みんなで語ろうパートII』が伊左次事務局長の挨拶、司会で始まり、テーマ『**どうしたら親亡きあとも子どもたちは豊かに暮せるか**』と題して山崎相談役の進行で、大変内容のある学習会であると同時に参加されたご両親も活発に発言をされ、口々に素晴らしい学習会だと満足の戴けた学習会でした。(尚、継続して同テーマでの学習会を開催してほしいとの声が参加者の方々からよせられました。)

(**おことわり**)紙面の関係でみなさんの発言、ご意見を掲載する事ができませんので、学習会報告という形でお知らせしたいと思います。

伊藤会長挨拶

本日はお忙しい中、神奈川県守る会主催の学習会に多数の会員さんの参加を戴き開催できました事を心より嬉しく思っております。また、日頃より守る会に対しましてご支援、ご協力を賜りお礼を申し上げます。

さて、民主党政権に変わり、障害者自立支援法は廃案となりましたが、新政権での自立支援法に変わる障害者総合福祉法が障害児(者)にとってこれまで以上に素晴らしいものになることを願っています。また、これまでになかった首相の所信表明に障害者の事が述べられ友愛の精神で今後も障害児(者)に対する思いやりの政治を民主党政権に期待し、我々神奈川県守る会のますますの発展と、更なる会員の皆様のご支援、ご協力を御願いたします。

<パネラーの紹介>

岩城 節子

本部守る会関ブロ在宅部長・東京支部長

鎌田 かおる

相模原療育園 療育部長

富田 義憲

リエゾン笠間 施設長

山崎 健一(司会進行役)

神奈川県守る会相談役



*** 学習会の趣旨、内容及び発言者の声は
学習会報告に掲載させていただきます**



全国重症心身障害児（者）を守る会

創立45周年記念大会

去る9月23日～24日の二日間にわたり、全国重症心身障害児（者）を守る会創立の地であります東京、グランドプリンスホテル新高輪にて国及び東京都、社会福祉協議会、各福祉団体の皆様のご支援、ご協力により開催されました。

全国重症心身障害児（者）を守る会は、昭和39年6月、重い重症児をもつ親たちが「**最も弱いものをひとりももれなく守る**」という基本理念のもと、その趣旨に賛同する方々と手を取り合って結成しました。

発会当時、充分な施策もなく、「この子を残しては死ねない、死ぬ時は一緒に」と誓った当時から45年の歳月が流れ、重症心身障害児者を取り巻く医療、福祉、教育施策は大きく進展を遂げ、多くの方々のご理解とご支援をはじめ、専門医の方々、行政機関の方々の計り知れないご尽力により、守る会も大きく成長、発展を遂げるに至りました。

これからも、親自身が自らの責任と義務を果たすと共に、会の三原則に則り、重症心身障害児者の懸命に生きる姿から**いのち**の大切さと無限の可能性を社会の皆様へ伝え、ご理解と共感を得る活動を、創立45周年記念大会の総意に基づき力強く宣言いたしました。

なお、記念大会に先立ち、シンポジウム『この子らを世の光に～医療・福祉・教育・親の在り方』と題してシンポジストの皆様からそれぞれの立場で話されました。

※詳しくは「両親の集い」10月号をご参照ください。



すべてのいのちの選別をしない

すべてのいのちを互いに認め合う・・・！

ソレイユ川崎 佐藤 泰彦

『創立45周年記念大会シンポジウム』に参加しました。実は、私としては、今回が初めての参加であったのですが、全国から大勢の方々が参加されていて、45年間重症児を守りながら培ってきた「守る会」のパワーを目の当たりにすることができ、それだけでも参加してよかったなと言う事を先ず感じました。

時期として、歴史的とも言える政権交代となった総選挙から一ヶ月も経っていないタイミングでした。これから、重症児を取り巻く環境のいろいろなところに変化が出てくる事が考えられ、私たちは改めて

正しい情報を共有しながら、意識を同じ方向に向けていく事が必要なのではと思っていましたので、本シンポジウムはいつにも増して重要な意味を持つものであらうと思いながら、シンポジストの先生方と司会の岡田先生のお話を聞かせていただきました。

各お立場からのお話は大変興味深いものばかりでして、このような時期にこのように情報をまとめてお聞きできたことは誠にありがたい事でした。

その中から私の印象に残っていることを二つ書かせていただきます。

先ず一つ目は、『世界に冠たる重症児支援』というお話です。社会福祉についてはヨーロッパが進んでいて、日本はそれを追いかけているものだと思っていたのですが、重症児支援については、医療面と福祉面を併せた日本のケアシステムが世界から注目されているとのお話であったかと思います。これまで重症児支援に関わってこられた方々に改めて敬意と感謝の意を表すと共に、このシステムのさらなる充実を図っていくことがその注目に応えていくことではないかと思いました。

二つ目は、「守る会運動」をますます広げていかなければならないというお話です。

「この子ら」は確かに我々親や関わって戴いている方々の「光」になっているのではないのでしょうか。いや、もう少し遠い方々の『光』にもなりつつあるのかも知れません。これをさらに遠い方々の「ひかり」にすることもできれば、『いのちの選別をしない、すべてのいのちを互いに認め合う』（「大会趣旨」からの引用です）世の中に近づけることができるのだから、『守る会運動』を広げる事は大切なのだ、というお話と受け取りました。わが子もそのような光の一つであるのだということを改めて思い起こさせていただきました。

第45回創立記念大会に参加された方から感想をお寄せいただきました。多くの参加された皆様もそれぞれの思いをおもちになられたことだと思います。これからも『守る会』のますますの発展と障害児・者の幸せのために会員の皆様のご理解、ご協力を切に御願いたします。



重症児・者の放つ一筋の光が多くの方々が目を向けて
くださるように、そしてその光を軸に広がる支援の輪を更
に膨らませ

『この子らを世の光に……』

＜全国重症心身障害児・者を守る会創立45周年大会＞

わたしたちの出来る事を考える

創立45周年記念大会に参加して

ソレイユ川崎 石橋 滋子



【守る会監事・坂主さんカット】

9月23日(水)に開かれた全国重症心身障害児・者を守る会創立45周年記念大会にグランドプリン

スホテル新高輪国際パミールにロンドの山崎さん、ソレイユのお母様たちと一緒に参加させていただきました。

品川駅に着くと案内の方々方が所々にいらして、会場まで分かりやすかったです。

会場は、3階大広間で整頓された椅子がズラッと並んでいました。

全国から沢山の方々が集まり、14時～17時まで、医療、福祉、教育、親の在り方など、テーマは「**この子らを世の光に**」に始まりました。

岡田喜篤氏の司会で厚生労働省、藤井康弘氏からは、障害者自立支援法の見直しについてのお話。

文部省からは下山直人氏が「一人ひとりの可能性を広げる教育を目指して」を掲げ、障害の重い子どものための教育の充実を目指し、医療との一層の連携を目標としていとお話されました。

医療の方では、国立病院機構の中澤一隆氏が療育活動の実態や、ベット数、療育介護事業の制度強化等の説明をいただきました。

社会福祉法人旭川荘の末光茂氏は「重症児の輝きを曇らさないために」を掲げ、グループホームやライフサイクルを通じて一貫した医療、在宅重症児と家族のトータルケアの充実、ショートステイの整備を話して下さいました。

また、糸賀一雄氏のお話もまじえて、日本ほど福祉、医療、教育を一貫している国は世界でも少なく注目をあびているので良い方向に向っていきたいとおっしゃっていました。

守る会副会長の秋山勝喜氏は重症施設の入所中の者が 18 歳以上になり、引継ぎ入所する場合、継続して入所出来るようにする。

平成24年4月1日以降は児相から市町村に移行となると聞き、私たちは安心しました。

尚、私たち親は専門の先生方や職員の方の知識と協力を得て、地下水となり、子ども達の、ゆつくりと進む可能性と絆を大切に守り抜く事を約束して大会は終了しました。

初めて出席して永いこと守り抜いた先輩たちの活動と努力に頭を下げ感謝いたします。

大会に参加した事を心より感謝します…ありがとうございました。

みんなの広場



会員の皆様から寄せられた原稿『みんなの広場』は会員さんたちの交流とコミュニケーションの広場です。あなたも是非、みんなの広場へ投稿してみませんか…

不思議な一夜

神奈川病院・ひまわり会 池田 久江

桜の花が咲き、若葉の季節……。4月1日の朝、大きな産声を上げて出てきたのは可愛い女の子でした。

我が家では、二人目のこどもでした。「一男一女、上手に作ったネ」お祝いに来た人も、家族も大喜びでした。新しく出来た橋の渡り初めで、花火を打ち上げられました。その音さえも、この子と私達を祝福してくれているように思われました。

<それから5年・愛しの真里子へ……！>

「真理子、覚えている……？五つに成った頃のこと、毎晩大きな声で泣いて、なぜなのか……？」何を聞いても言葉がない貴方は何も答えてはくれなかったね、九月の終わりごろだったか、コスモスの花がいっぱい咲いて隣の畑の陸稲が黄色く色づいていた。

お月さんがとても綺麗だった夜中のこと……

まだ歩けない貴方を抱いてお母さんと二人で庭に出てお月さんを眺めていた綺麗な丸いお月さんだった……

その時お母さんは思ったの……

お月さんを見ていても、得るものは何もない。歩く練習をしようって、そして貴方を後ろから支えて、イチニ、イチニ、広くもない庭をあっちへ行ったりこっちへ来たり、何回も歩いたね……

二人とも疲れてコスモスの花の前で一休み、そして、またイチニ、イチニ、……

あらー、真理子裸足だった、ふと気がついて、貴方の足の裏を見たら、泥だらけ、それを手で拭いたら足をもじもじさせて笑っていたわね。家の中ではあんなに泣いていたのに……

カラス、なぜ鳴くの、カラスは山に～……貴方を抱いて歌っていたらなんだか悲しくなっちゃって、お母さん声を出して泣いちゃった。そして貴方と一緒に死んで終いたくなって、畑のあぜ道を線路に向かって歩いて行ったの……

その時、後ろから「オカアサーン」って呼ぶ声が聞こえたの。アッ！お兄ちゃんがついてきちゃった。ふり返ってみても、お兄ちゃんの姿は見えなかったの……で、また歩き出すとまた聞こえたの「オカアサーン」って……？

変だなと思って家へ引き返したら、お兄ちゃんはお婆ちゃんと一緒にスヤスヤ良く寝ていたんだよ……。不思議な話しでしょ……！でもね、あの時お兄ちゃんはお母さんと真理子を救ってくれたんだと思うよ。

良かったね、二人とも死なないで……勿論、貴女は死にたいなんて思っていなかったでしょうけど……

お母さんの身勝手だったよね。

そんな事があったんだ、今だから話せるんだ、意気地なしのお母さんを笑っていいよ、……

現在なら何を言われても、笑われても、平気だよ……。

あれから強いお母さんになったんだもの、だから真理子も頑張って……

<あれから39年たちました>

真理子は今年で44歳です。神奈川病院のベットの上で元気に生活しています。

発作を起こしたり、熱を出したり、怪我をしたり、それでも大勢の人に見守られ、彼女らしく、元気に生活しています。

わたしたち両親も、ずいぶん年をとりました。それでも元気です。みんな元気が取り得で、この先もこの生活がずっと続いていく事を願っています。

笑顔の宝石

こども医療センター 早坂 正人



二十二年前の事になります。妻は妊娠中毒から脳血柱、脳梗塞を起こし、しばらくして、帝王切開で、一粒種の今の娘を産みました。

家族一同、最初は娘の誕生を大変喜びました。私もその将来の幸せを祈って、字画等を調べ、いつも幸せの真中でいる願いを込め「衣央」と名づけました。

しかし、日が経つにつれ、少しずつ異常に気付き、先生にお伺いしたところ、脳性小児麻痺と、お聞きし、目先が真闇になったことを鮮明に覚えています。

娘に罪は無いけれど、これから、辛いも思いを抱え、人生を過ごす覚悟を決めたつもりでしたが、こんな被害意識の中では、挫折そうになるのは当然の事でした。

案の定、そんな意識が娘の存在に対する大きな冒涇であると思い知らされたのは、必死に生きる娘の顔一杯に広がる無邪気な微笑みでした。

娘がまだ三歳ぐらいの頃です。その障害のため両脚をつっぱるため痙攣を増発し、苦しそうに泣き声を上げることが多かったので、先生に相談の上、両脚の腱を手術しました。手術後、両脚を広く開いたまま、石膏で固め、ギブスをしたのですが、身動きできない娘はいかに辛く苦しかったかは想像に難くありません。特にギブスを修正するために膝の内側にキズがつき、少し化膿した時のことでした。痛みに泣いていた娘は、私達夫婦の顔を見た途端、得も言われない笑顔を投げ掛けてきました。

私はこの時から、この笑顔の宝石を一杯娘からもらえるよう娘をサポートして行こうと考え方を変えました。

それからは、娘が発作を起こした時、高熱を上げた時など何があっても回復を信じ、あの笑顔に戻ることを疑わなくなったのです。この他にも、色んなエピソードに限りはありませんが、後向きの事は全てその場に捨ててゆくことに決めました。

笑顔を信じ、前向きに娘と一緒にいれる時間を大切にしていこうと思います。今年で娘は、二十二歳になりました。胸も脹み、女らしく眩しい程です。

でも、あの笑顔は本当に宝石のように今も輝いています。「ネェ、真央ちゃんはママより綺麗になったんじゃない!」「パパそっくりだよネェ!」嬉しいような(女の子だろう)俺に似てるってもなあ……

少し複雑な思いで…こちらは苦笑い!

社会福祉法人 風祭の森

太陽の門

平成14年4月開所した太陽の門、開設準備から関わられた江川文誠施設長は、変化のある一日、変化のある一年を提供すること……を目標にスタッフとともにスタートを切られました。(52名の定員です)

毎月誕生日、各月のイベントなど支援スタッフの工夫で季節に合わせた行事が展開され、利用者の



笑顔を引き出しています。

他方、目的別活動として、料理、園芸、木工、陶芸、音楽療法やスノーブレンによる光遊び、粗大運動など、それぞれの分野で楽しんでいます。殊に陶芸はプロの陶芸家を月2回招聘して楽しんでいます。天気の良い日は散歩しながら屋外にある窯に集まり陶芸を楽しんだり、各自作った器を使用して、ティータイムを過ごしたり、活動の最後にはいつも先生自作のオリジナルによる演奏会も開かれるようです。

現在は、玄関ホールから階段横の壁面を飾る作品を陶器で作る事にしています。

保護者等も含めてパーツを作って大木に仕上げようという活動です、ほとんどの行事等は保護者も参加、見学OKと言う事になっています。そのような毎月のお知らせは利用者の顔写真とスタッフのコメントと共に保護者に送られてきて、家族も楽しみに待っているところです。

家族会の方は役員との懇談会を概ね月1回行い、施設と家族との懇談会は三ヶ月に1回程度行っています。また、年一回は懇談会を外で会食しながらカラオケを楽しむなどしています。

昨年度は成年後見人制度に家族会として取り組むこととなり、まず、役員の代表が選定手続きを行い、まだ選定していない人にサポートして頂き、二月から三月かけて延べ9回にわたり、指導して頂いたお陰で26人の申し立てを行いました。その後、未選定と思われる会員に声掛けをしたものの反応なしとの事で心配が残っているところです。

尚、今年度からは、ディーサービス利用者のうち希望者には家族会に入会を認めることとなり、現在は八名の方が入会しています。

が、現在のところは家族会への参加はあまりなく、どのような方向付けをするのか検討課題になっています。

更に、家族会として、大きな課題は、いずこも同じだろうと思いますが、家族の高齢化、親が施設入所あるいは他界し家族会には出られないケースがあります。そういう場合は会費も納入されていないといった状況もあります。

さらには、後見人を親が出来なくなった時の選定については、本人に兄弟がいなかったり、懸念もあります。遠方で暮しているなどのケースではどのような方策が考えられるのか心配な点が多々あります。

司法書士などの専門家を依頼した場合、本人の年金の範囲内で報酬が支払えるのか？という懸念もあります。

また、契約などの手続き等には、長けていても福祉の視点が欠けていたり、面会にはほとんど来ないといった現状も聞きます。

様々な工夫の実状を聞かせて戴けたら今後の対応にについて学習できるといいなと思っております。

私の健康法はボランティア

相模原療育園 山瀬 焼平

私は今年で満 96 歳になりました。血液検査の結果、甲状腺機能稍低と診断されました。甲状腺機能が低下すると積極性がなくなり、何をするのも面倒になり、すぐにやればいい事も後回しにしています。

私はよく「大変お元気ですが何か健康法をしていますか？」と聞かれます。その時ちょっとキザなようですが「ボランティアをして、出来るだけ体を動かすようにしています」と答えます。

社会福祉協議会、民生委員、老人クラブの催しのお手伝い、テント張り、イス、机を並べたり、また一人暮らしの老人の家の庭掃除、後援の樹木の剪定や掃除、更に病院で病人の車椅子の後押し、などなど、福祉関係のボランティア(何でもする国体共生 95)に入会し、月 6~7 回程度参加します。

また、「逗子ガイド倶楽部」では逗子、鎌倉、三浦半島周辺の名所旧跡案内をしています。資料作り、説明役を引き受けると大変な勉強になり、現地調査をしなければなりませんし、その他ボランティア以外に毎週一回ターゲットゴルフを楽しんでいます。

白い太目の紐でコートを作って、こうもり傘を逆さにしたネットにバトミントンのような羽をつけたゴルフボールを入れる競技で P・W(ピッチングウェッジ)1 本で 18 ホール。体力の衰えた老人向きスポーを楽しんでいます。



話は変わって、私の長男、信正は今、相模原療育園に入園しています。毎月の医療費、介護費用は数十万円かかります。しかし、支払は障害者年金内で支払うことが出来ます。

多額の税金を使って療育園に入園しているのだから、少しでも国にお返しをしたいと予めから考えていましたので逗子社協の「お父さん手伝ってよ」というボランティア団体にも入会しました。

私は「健康のためボランティアをしています」と言っていますが、その始まりは信正の療育園の入園のお返しだったのです。

現在、逗子社会福祉協議会に登録されている者の中で私は最高齢となり、そのため、たいした役に立ちませんが、平成 18 年にボランティア連絡協議会から表彰、19 年には社会福祉協議会から表彰、20 年にはレクレーション協会から表彰を頂きました。これからも元気で、少しでも皆さんのお役に立てればと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

小さき花の園 須田 和子

- ◆ 巡り来ぬ月に初めて人が立ち吾子病院に通ひ初めし日
- ◆ 健やかにあらば受験の年なるか塾案内のハガキを破る
- ◆ 十八の生まれ日祝ぐとレストランの段を運びぬ車椅子ごと
- ◆ とこしへに幼の界を持つべし不意打ちのごと選挙権来ぬ
- ◆ 夢路では歩いているや唐突に真夜を声立て笑ふ麻痺の子
- ◆ 元旦のエリカ群れ咲く伊豆の丘子の車椅子を先立てて行く
- ◆ この朝も目白来鳴けり麻痺の子の朝餉養ふ手を休め聞く
- ◆ 十五夜の月なき夜半を走らす車中に吾子の発作止まず
- ◆ 義務教育終わる日近し通学の叶わぬままに障害児吾子
- ◆ いつ知らず我の指針と子はなりて病みつつはたちを三つ越えたり
- ◆ 抱えゆく起き上がり小法師に鳴る盲c pの少年に買ふを



新型インフルエンザワクチンが

重症心身障害児者に優先的に接種されています。

去る9月8日、全国重症心身障害児(者)を守る会、北浦雅子会長、日本重症児福祉協会、江草理事長連盟で、厚生労働大臣、厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部長、同省障害保健福祉部長及び同部障害福祉課長に対して重症心身障害児者に対し最優先接種者の医療従事者に次いで2番目に接種をしてもらいたいと要望が出されました。

厚生労働省は、これを了とし、重症心身障害児者に対しては「得病がある人」の中に含めて2番目に接種することを決定。ちなみに、接種の優先順位は6段階あり、6位は基礎疾患を有しない高齢者。施設に入所している者約1万9千名を含めて4～5万人の全国の重症心身障害児者に接種が進められています。

<おこわり>

創立45周年記念大会記事を掲載する予定でしたが、紙面の関係上載せることができませんでした。『両親の集い10月号』にて全国大会模様が掲載されています。是非参照願います。

編集後記

- ◎ 今年は、インフルエンザにより全国大会の延期、関東、甲信越ブロック大会が中止となつてしまいました。これからが風邪の季節です。体調管理に充分心掛けましょう。
- ◎ 障害者自立支援法が廃案の方向となり今後の動向が気になります。新政権のもとで障害児者に対する対策を大いに期待したいものです。
- ◎ 会報も第3号発行までに至りました。皆様の原稿がコミュニケーションの輪を広げ、会員同士が身近に感じられることを楽しみにしております。尚、今後は会の活動や成果をどしどし取り上げ会報としての充実を図っていきます。会員の皆様から会報に対するご意見、ご要望をお寄せ下さい。
- ◎ 今年も残りあとわずか、会員の皆様にとつて来年も良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

編集委員 玉井

